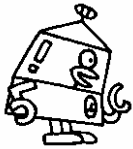


小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /  
魚の卵の成長 / 理解シート

## メダカのたまごのふ化は、どうなると始まるの



オスの手助けでメスが産卵<sup>さんらん</sup>し、オスのかけた精子<sup>せいし</sup>がたまご<sup>たまご</sup>と結びついた(受精<sup>じゅせい</sup>)ときから、ふ化が始まるのさ。

### たまごが受精したときから、ふ化が始まる

メダカの産卵は、早朝なのでなかなか見られませんが、必ずオスがせびれやおびれでメスの体をつつむようにしてたまごを産ませ、すばやくオスの精子をふくんだ白い液<sup>えき</sup>をたまごにかけます。精子がたまごと1つになることを受精といい、受精したたまごを受精卵<sup>じゅせいらん</sup>といいます。この受精卵だけが、ふ化できるのです。

受精したたまごの中では、すぐ大変化が始まります。水草に産みつけられた受精卵を、水を少し入れたペトリ皿<sup>うつ</sup>などに移し、数時間おきにかいぼうけんび鏡で観察すると、変化のようすがわかります。水温が20~25 なら、およそ2週間で、たまごから子魚にまで変わる、大変化をするわけです。

### 受精できなかったたまごは、変化しない

オスの精子がかからなかったりして、受精できなかったたまごが、受精卵の中にま<sup>ま</sup>混じっていることがあります。このたまごはなんの変化も起きず、やがてカビがはえたり、くさったりします。

産卵するとき川を上ってくるサケは、できるだけ数をふやすため人工的に受精させています。川口でつかまえたメスの腹<sup>はら</sup>からたまごを取りだし、オスの精子をふくんだ液をふりかけて受精させ、ふ化させて、少し大きくなった子魚を川に放すのです。

こうすれば、ほかの動物などに食われて死ぬ<sup>わりあい</sup>割合が少なくなるからです。

